

野田民主党政権のエネルギー・原子力政策に関する発言・見解 (民主党と国民新党との連立政権として9月2日発足)

	エネルギー政策の方向性	既存原発(福島対応)方針	将来原発	燃料サイクル政策	輸出政策
野田佳彦 首相	[9/2就任会見] ・将来的に脱原子力依存 ・国民の不安を取り除く形でのエネルギーのベスト ・ミックスを構築する ・新エネルギーの開発、自然エネルギーの普及、省エネ社会を着実に推進させる流れの中で、エネルギーの基本的計画を作り上げる	[9/2就任会見] ・原子力発電所は寿命の来たものを更新する ・当面はストレートレスチェンジ等をふまえて、安全性をきちんと確保しながら、地元への理解を前提に定期検査の原発を再稼働する。電力不足が国内経済の足かせにならないよう配慮する	[9/2就任会見] ・新たに造るのは現実的に困難だ		
野田佳彦 首相 (就任前)	[文藝春秋9月号手記] ・電力は日本社会の「血液」そのものであり、政府には電力を安定的に供給する体制をつくる責任がある ・エネルギー基本計画を白紙から見直すことは当然	[文藝春秋9月号手記] ・厳しい現実を直視すれば、安全性を徹底的に検証した原発を当面は再稼働に向けて努力することこそが最善の策。まずはストレートレス(耐性検査)の整備など規制体系を整え、その中で新しい基準に合わない原発は廃炉にすべき ・原発の依存度を減らす方向を目指しながらも、少なくとも2030年までは一定割合の既存の発電所の活用が現実的な選択	[文藝春秋9月号手記] ・今後、原子力発電所の新増設は難しい		[文藝春秋9月号手記] ・短兵急に原発輸出を止めざるべきでない ・今回の震災事故を契機に原発安全の新たな技術を蓄積し、相手国が求める限りその危険性と安全対策を伝え、震災後の日本だからこそできる新しい国際貢献でもある ・原発輸出に日本がトップセールスを行ってきた経緯もあり、今後も相手国に向いて首脳間で原発について正確な情報と対策を伝えるべき
枝野幸男 総産相	[9/12就任会見] ・CO2排出削減については可能な限り最大限の努力を行うことは不要だが、具体的な数値目標は事故を踏まえたエネルギー政策のなかで様々な議論が必要	[9/12就任会見] ・安全性に対して周辺住民の理解をいいたいく努力をした上で、稼働できる原発は再稼働する	[9/12就任会見] ・(今後の原発建設で)全くの新規(建設)は相当困難なのは大前提。(建設中、準備工事中は)個別に検討しなければならぬ		
中川正春 文科相	[9/2就任会見] ・代替・自然エネルギーを中心に達成可能な技術を前提にしながら、核に依存する部分というのを減らしていきエネルギーのベスト・ミックスを		[9/2就任会見] ・核燃料サイクル部門と原子力部門のミックスの観点で議論すべき ・核燃料サイクルをどのよう位置付けていくかは、文科省だけの話でなく政策的議論を ・「もんじゅ」は短期的には予算をつけるべきと考えており、国民と携わる人たちが納得できるように専門委員会で検証していく		
細野豪志 環境・原発相	[9/4記者会見] ・自然エネルギーや節電といった要因を踏まえ、2020年に(1990年比で)25%(温室ガス排出量を削減する)の目標は守っていくことが望ましい	[9/4記者会見] ・原発の「寿命」については科学的にしっかりと判断 ・安全行は廃炉についてかなり関わることになるのでは			
玄葉光一郎 外相		[8/26 国家戦略担当相当時の記者会見] ・福島を除染については、今、世界からどう修復していくかを見られている。チェルノブイリの時にできなかった奇跡を、日本人の誠実さと最先端技術でしっかりと克服していくべき。除染は、年間空間線量が1ミリシーベルトから20ミリシーベルト以下の地域で、比較的高い線量が出ている地域の除染を優先させる。私からは、第三次補正予算を待たせているわけにはいかないので、いち早く準備費で、スピード感を持って対応してほしいと請うた。			
古川元久 国家戦略担当相	[9/2就任会見] ・原発依存度を減らすと同時にそれに代わるエネルギーを短期・中期・長期的にどう確保するか。再生可能エネルギー促進が極めて大事。短期的には天然ガス等化石エネルギーの確保も。				

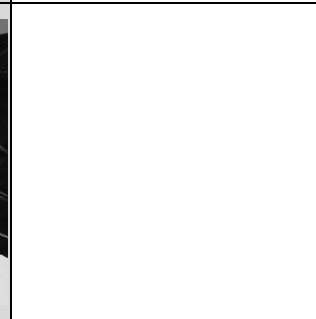
主な日本企業の原子力プラント受注交渉国 (日本原子力産業協会作成)

国名	交渉者名	対象プロジェクト	炉設計	2国間協定
ロシア	日立(優先交渉権)	ビサギナス発電所	ABWR	未締結
トルコ	東芝(優先交渉権)	シノップ発電所		未締結
ベトナム	国際原子力開発会社(建設パートナー)	ニントゥアン第二発電所		衆院で継続審議
ヨルダン	アトメア(三菱重工/仏アレバ/社ほか各社ともに応札)	マジダラル発電所	ATMEA1	参院で可決、衆院で継続審議
米国	三菱重工	コマンチエーパーク3、4号	US-APWR	日米原子力協定あり
	三菱重工	ノースアア3号	US-APWR	
	東芝(事業者は4月に投資打ち切りを決定)	STP3、4号(中止)	ABWR	

* 日露、日韓原子力協定は署名、衆院で継続審議

[9/2 就任会見]
・「原子力発電については、より安全性を高めて活用しながら、依存度を下げていく」とする中間取りまとめを行った政府・新成長戦略実現会議の「エネルギー・環境会議」の議長を務めた
・原発輸出そのものには、関与してこなかったが、自民党の小野寺議員の質問主意書の答弁書の内容を踏まえていかにできるを得ない
・相手国が希望する場合には、事故の教訓を取り入れ最高水準のものを提供するという事
・気持的に積極的に積極的になれるかと言われたら、私は必ずしもなれない。相手国に丁寧に説明し、日本人を信頼し、その技術を買うということであれば、それはもう我々としてはやむを得ないということだ

[9/13閣議後会見]
・燃料サイクルについては、古川国家戦略担当相のところでも検討が始まったと聞いているが、特に再処理・パットクエントについては原子力政策大綱で詰めた議論ができていると思っている



[9/26 国家戦略担当相当時の記者会見]
・福島を除染については、今、世界からどう修復していくかを見られている。チェルノブイリの時にできなかった奇跡を、日本人の誠実さと最先端技術でしっかりと克服していくべき。除染は、年間空間線量が1ミリシーベルトから20ミリシーベルト以下の地域で、比較的高い線量が出ている地域の除染を優先させる。私からは、第三次補正予算を待たせているわけにはいかないので、いち早く準備費で、スピード感を持って対応してほしいと請うた。